

共有すべき事例

2015年3月 事例 1

〔内服薬調剤〕 その他に関する事例

(事例番号:000000041651)

事 例

【事例の内容】

カルボシステインシロップ5%「タカタ」の単独調剤と、アスピリンシロップ0.5%とプルスマリンAシロップ小児用0.3%の混合調剤が、同じ用法（1日2回）で処方されていた。いつも3種類を混合調剤しているため、今回はRpが分かれていたのに全て混合して調剤した。ラベルを書く時に、Rpが分かれていたことに気付き、訂正して調剤した。

【背景・要因】

思い込みもあり、Rpが分かれていることに気付かず調剤した。処方せんの見間違いがあった。

【薬局が考えた改善策】

シロップの調剤メモにRpナンバーを書く欄を設け、最初にRpが意識できるようにする。必ず、調剤前に全て記載を済ませてからシロップ調剤を開始する。

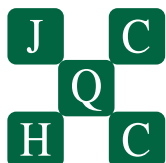
事 例 の ポ イ ン ト

- 分かれていたRpを思い込みにより全て混合調剤した事例である。
- 今回は交付前に気づくことができたが、調剤メモにRp番号の記載欄を設けることは有用な改善策である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0281(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

共有すべき事例

2015年3月 事例 2

〔疑義照会〕 薬剤変更に関する事例

(事例番号：000000041765)

事 例

【事例の内容】

風邪の症状、発熱のためP L 配合顆粒の処方があったが、患者は前立腺肥大症であった。以前に泌尿器医師よりP L 配合顆粒は服用不可の指示を受けたことがあることを患者より確認した。処方医師へ疑義照会を行い、P L 配合顆粒を削除するとともに、発熱に対してカロナール錠200が追加処方となった。

【背景・要因】

診察時に禁忌となる原疾患がないか等の基本的確認を怠ったためと判断した。

【薬局が考えた改善策】

診察時に患者背景の確認をしっかりと行う。

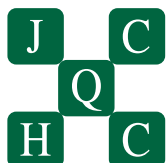
事 例 の ポ イ ン ト

- 薬剤師による患者への聞き取りが重要であることを再認識させられる事例である。
- 患者から信頼される薬剤師としてコミュニケーションスキルも大切である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0281(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/>

共有すべき事例

2015年3月 事例3

〔交付〕 患者間違いに関する事例

(事例番号：000000041942)

事 例

【事例の内容】

交付者が名前を呼んで、カウンターへ来た患者に薬を渡した。その後、処方せんを薬局に渡しておき、後で薬を取りに来る別の患者の薬がないことがわかった。そこで交付間違いの可能性があると気が付いた。誤って薬を渡してしまった患者に連絡をとり、患者宅を訪問した。薬の服用はなかったのですべてを回収し、正しい薬を渡した。

【背景・要因】

カウンターでの確認を怠った。耳の遠い方ではあったがしっかりと本人であるか確認がとれていなかった。

【薬局が考えた改善策】

カウンターでもう一度確認をする。処方せんまたは薬袋、薬剤情報提供文書などで印字してあるものを見せて本人であることを確認する。特に耳の遠い患者には配慮をする。

その他の情報

関連医薬品：ロキソプロフェンナトリウム錠60mg「日医工」
アモキシシリンカプセル250mg「日医工」

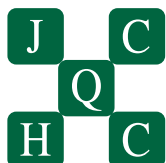
事例のポイント

- 患者と話をしながら耳が遠いかどうか気付くことができる。
- また、高齢者は耳の遠い方が多いので、改善策で示されたように薬袋などにより視覚的な確認も合わせて行うことは大切である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0281(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/>